

霞ヶ浦の魅力を活かす構想について



はやし しょうこ
 林 昌子
 議員

質問 霞ヶ浦の魅力を活かしながら、美浦村の地域活性化につながる有効な活用構想は。

答弁（経済建設部長） 昨年度策定した「美浦村観光地化計画」では、霞ヶ浦と美浦村と近隣市町をどのように結びつけ、相乗効果が得られるかを、今年度より10年間の計画で取り組んでいき、そのための実証実験を行っていく。

質問 土浦市観光協会と連携して、大山ドックに帆引き船を見るための遊覧船の乗り入れを検討できないか。

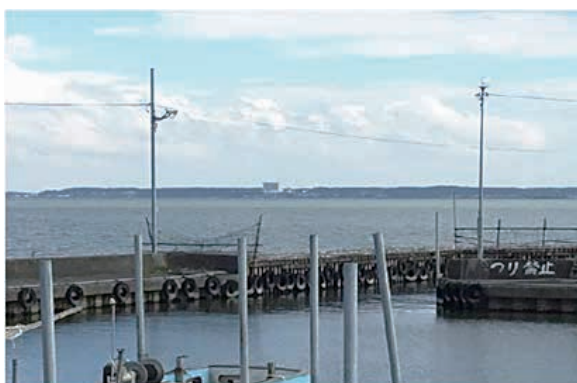
答弁（経済建設部長） 遊覧船が大山ドックに入るには、設備改修も必要となる。今年は既存の漁船で出来るツアーを検討し、今後、水防拠点付近と一体となった活用、観光地としての魅力度向上や利用者増加の方策を検討していく。

質問 帆引き船が出ている期間は土日を帆引き船観光船、ウィークデーは一般の定期便として、南北地域間の交流、さらには土浦協同病院へ通院する足として、美浦村の木原漁港から土浦市の沖宿漁港への定期便を検討できないか。

答弁（総務部長） 利用者の人数から考えて、大型の旅客船や大型の漁船は考えられず、天候によってその運行が大幅に左右される懸念、沖宿漁港から土浦協同病院に行く方法、

土浦市経由の既存のバス利用者の減少、自家用車の普及等、総合的に判断すると、定期船を運航することは極めて困難であると言わざるを得ない。

観光目的の運行は、先の答弁にあるように、霞ヶ浦沿岸市町村で連携して計画しており、これから検討していかなければならない課題と考える。



沖宿漁港から木原漁港方面

質問 近隣の市町と連携して、湖面上の活用で新たな動線拡大と、自然豊かな地域にしかできない活性化事業を実現してほしいが、村長の考えは。

答弁（村長） サイクリングロード、観光船、霞ヶ浦二橋、水上飛行機等いろいろな考えがあると思うが、霞ヶ浦をアピールすることは必要であるし、美浦村だけではなく、近隣の13市町村全体で考えるべきこともあると思う。

自主防災組織のスキルアップについて

質問 住民が自分たちで避難し、避難所運営ができるようになるには、自主防災組織のスキルアップが最短と考えるが、そのような計画はあるか。

答弁（総務部長） 避難所の運営は、非常に重要な防災対策の一つと考える。まずは自主防災組織の組織率を上げ、7割・8割の地区で組織化できたら、避難所の運営についてどのように関わってもらえるか協議し、段階を踏んで村の目指す、理想とする形にしていきたい。